

皆様、明けましておめでとうございます。どうぞ、今年もよろしくお祈りします。
年明け早々ですが、皆様にお祈りがあります。家に戻られたら、是非 YouTube のチャンネル登録をお願いします。Tube はブラウン管。YouTube には「あなたのテレビ」の意味があります。
なぜこんなに YouTube と言うかということ、これからの時代はテレビじゃない。というのは、NHK 自身が YouTube に力を入れ出したんです。NHK をぶっ壊すと言う人が大暴れをしているので、オチオチしてられないという事だそうです。

数年前から NHK が、YouTube にアップするのを前提とした短編動画コンテストを開いています。
数年前の優勝作品は『幸せな人』というタイトルで、話した事があるかも知りません。
1 人の青年サラリーマンが会社の人間関係に疲れ果てて、1 人住まいのアパートに帰って行きます。
よっぽど嫌な事があったのかクタクタ。ふと見ると自動販売機があって、缶コーヒーを買ったら、自動販売機が「ありがとうございます」と優しい女性の声で喋るんですよ。これが沁みた。
その声をもう 1 度聞きたいと思って、またお金を入れるんです。そうして、ハッと見たら 5-6 本抱えているという、そんな事が続きます。

ある日、いつものように疲れて、自動販売機をふと見ると、スプレーで滅茶苦茶に落書きされている。「いつもお世話になっている自販機に何すんねん！」と。自腹でシンナーと雑巾を買って、汚れを全部きれいにして、ピカピカに磨き上げて、これでよし！アパートに帰ろうとしたその瞬間、後ろから「ありがとうございます。」「えっ」と思って振り向いたら、他の人が買っていたという。
お金入れてないのに「磨いてくれてありがとうございます」と言ってくれたんかな、と言う時の彼は涙目。

『幸せな人』。どこが幸せかというと、幻のような勘違いの時間だったけど、自分を気遣ってくれる親切な言葉かけをもらった。要するに、人間は愛されていると思える時に幸せ。
自販機は器械だから、後でガックリ来るわけですが、自由意思に基づいて、しかもお金を入れる見返りではなく、何の見返りもないのに、自発的に、永遠に変わらない愛であなたを愛している方がおられる。それが、聖書が語る神様です。神様はあなたを本当に心から深く愛しておられます。

ところが、神はそもそも見えない。「見えないものをなぜ信じるの？」「神様なんて、今どき口にするなんて」と未だにというか、今でも討論になる事が、最近もあったんです。
その最大の理由は、明治 8 年初めまでは、国語の教科書に「この世界をお造りになったのは神で、最初の人間はアダムとエバである」と書いてあった。明治元年から明治 7 年までの初等教育を受けた子供たちは、聖書に基く教育を受けていたんです。明治 8 年に変わった。
進化論の教育が明治 8 年から始まって以降ずっと。その理由はいつかまたお話ししたいと思います。

今日のテーマは【科学は真理を探究するか？】前半は、それをお話ししたいと思います。
去年、日本のノーベル賞受賞者がまた出ましたね。吉野彰（よしの あきら/1948-）さん。
パソコンやスマホのバッテリーのリチウムイオン電池を発明した人。笑顔がステキなおじいちゃま。

その前の 2018 年も日本人。本庶佑（ほんじょ たすく/1942-）さん。今までで 28 人。
本庶さんはオプジーボのモデルとなった癌の免疫療法を発明した人です。

彼にインタビューした時、「日本のマスコミは、すぐに『サイエンスなどの権威ある科学雑誌にこう書いてある』と言う。」

自然科学の権威ある2大論文雑誌は『ネイチャー』と『サイエンス』で、投稿したから採用されるのではなく、採用されるか査読する人たちがいます。査読とは、その論文が掲載するに値するかをチェックする。そして、パスしたもののだけが載るのです。

しかし本庶さんは、『ネイチャー』や『サイエンス』に載っている論文の9割は嘘だ。10年経ったら、ウソと見破られて9割は消えている。残っているのは良くて1割。『ネイチャー』だ『サイエンス』だとガタガタ騒ぐな。」元々、口が悪い人ですよ。ずけずけ言う方で気持ちがいい。

最高の論文雑誌に載っても、10年経ったら「あれは嘘だった」という事になるのはなぜか？

これについて、昨年、創造論に造詣の深い方から色々教えていただきました。

宇佐神実(うさみ みのる/1961-)さん。泊りがけで、私の胸の中にある質問を色々ぶつけてみたのですが、本当に打てば響くというか、たくさん教えていただいて至福の時間でした。

彼は若い時、カリフォルニア大学バークレー校に留学しました。この大学は世界で一番多くのノーベル賞受賞者を出している大学。という事は、この大学の教授たちはノーベル賞受賞者たちが多く、ここに入学したという事は、ノーベル賞受賞の科学者である教授から直接授業を受けられる。

彼は入学した時、既にクリスチャンでした。入学時に色んなガイダンスを見て困ったんです。

取りたい授業だらけ。あれもこれも取りたいけれど、時間がかぶっている。

まず、ティム・ホワイト(1950-)の授業を取りました。彼はアメリカを代表する進化論学者の第一人者。日本で言うなら今西錦司(いまにし きんじ/1902-1992)。

世界的進化論の第一人者ティム・ホワイトの受講者800名。ちょっと遅れて入ったら座る所ない。

というのは、もぐりの学生たちが床に座っている。ちゃんと履修届を出す学生以外にも、ノーベル賞学者クラスの授業を聞きたい学生でいっぱい。立錐の余地もない。

ティム・ホワイト教授が、進化論の最初の授業で開口一番言いました。

「皆さん、今から進化論を学ぼうとしていますが、諸君は大変な授業を取ってしまった事になりますよ。なぜなら、ひどい論争に明け暮れている学問で、事実と言えるようなものや答えがない。疑問だらけという事が満載の分野なのです。最初にはっきり言うておきます。進化論は皆さんが考えているようなものではない。絶対的事実と言えるようなものではなく、はっきり言うと、“明日晴れかな、雨かな”くらいのレベルのもので、重力が存在するというような、具体的事実を扱う学問ではないのです。」

その瞬間、学生たちが「ウォ！」「うっそー?!」「ヤバイ！」「まじか！」「ホンマか?!」みたいな感じ。

アメリカの学生たちも「進化論、本当かな」と思って入ったら、進化論を1番よく知っている教授が「これは、絶対的事実と言えるような代物ではない」と最初に宣言したわけ。

【科学は真理を探究するか?】 答えを最初に言います。真理を探究してません。

一般的に、「科学は色んな現象を客観的に見ながら、客観的情報に基づいて仮説を立て、それが正しいかを実験や観察を繰り返して客観的データを取り、客観的に正しいという結論を導き出す」と思っているが、それは違うと言うのです。科学は科学者一人ひとりが持っている主観からスタートすると。

客観的ではなくて主観。

今西錦司さんも「科学は、科学者の主観を客観的に見せるための手続きである」と言い切っていますよ。

「これは、こういう風だと私は思う」と、まず科学者の主観があつて、それに基づいて仮説を立て、その仮説が正しいと見えるデータを集めて皆を説得する。

その時、誰も反論できず、それに替わる理論を言う事ができないなら、その時点においては最も正しいとされるもの、賞味期限付き・期間限定の事実と思われるものが科学的事実だと。

すなわち、真理を探究しているのではなく、自分の主観が正しいかどうかを探究しているんです。

例えば、この世界はなぜ存在しているのか？

「神は無い」という主観に立つ科学者は、「偶然、何の働きかけもなく、突然物質が現れ、その物質が長い時間をかけて生命体に変わり、それが気の遠くなる時間をかけて、次々に高度な生き物に変化し、最終的に人間になった」と考えます。

しかし、「神はいる」という主観に立つ科学者は、「世界はなぜ、こんなに合理的にデザインの的に優れた姿なのか？それは、全知全能のデザイナーがおられて、そのように造ったからだ」と考えるのです。

つまり無神論の科学者も、神はいると考える科学者も、主観に基づいて追及する。初めに主観があつて、それに基づいてデータを集めて主張しているので、科学は絶対審理ではなくて暫定真理です。

一時的にそう思われているけど、それを覆すものが出て来ると、今までの真理・事実と言われていたものが全部ひっくり返って行きます。

だから「進化論と創造論では、どちらが科学的ですか？」という質問はナンセンスなんです。

「神が無くて進化したという前提と、この世界をお造りになった神がおられるという前提では、どちらが正しい前提なのか？」と問うのが正しいのです。

今日は進化論ではなくて。まず、これだけ言いたかったんです。実はリクエストがあつて、サービス精神が旺盛なので応えたと。約束を果たしたので、突如聖書に行きたいと思います。

[イザヤ書 41 章](#)を開けてください。私は創造主がおられると信じていますが、科学データの結果で信じたものではありません。これも私にはとても気になるトピックなのですが、私が創造主を信じた最大の理由・根拠は預言です。聖書には、これから世界がどう動いて行くのか、神が前もって預言している。その預言の通りに世界歴史が動いて来た。それが最大の理由でした。

[イザヤ書](#)は預言書です。これは、ペルシアから出て来る 1 人の人物によってユダヤ人が助かるという預言。今日はその詳しい説明ではなく、新年に当たって、[41 章 10 節](#)から聖書が与える勇気について考えたいと思います。

[イザヤ 41:10](#) 恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。わたしがあなたの神だから。わたしはあなたを強くし、あなたを助け、わたしの義の右の手で、あなたを守る。

恐れるな。聖書全体で「恐れるな」という言葉が 365 回出て来ます。1 年 365 日。

人間をお造りになった神様は、毎日毎日私たちに向かって、「怖がらなくていい。恐れなくていい。怯えなくていい。落ち着いていたらいいよ。」

なぜ恐れるなと言われるのか？この世にいる限り、私たちに脅かすものは枚挙にいとまがないから。次々に恐ろしい事・辛い事・ガッカリする事・嫌な事がありますね。

その時、恐れなくてもよい理由を [10 節](#)から 3 つのポイントでご紹介したいんです。

聖書が言う神様は人が作った神ではなく、人をお造りになった方。あなたの作者。あなたの父なる神。あなたの魂の親。全宇宙の第一原因者。

恐れなくてもよい理由 1) わたしはあなたとともにいるから。

昔 NHK で『大草原の小さな家』という番組があって、私の子供が小さい時、それをビデオで見て感想を述べ合った事がありました。映画もいいんですが、1 番いいのは原作の本です。

西部開拓時代のアメリカで、夫婦に 3 人の娘がいて、引越しをしながら開拓して成長していく物語。お父さんはチャールズ。何でもできる。陽気で歌が上手くてバイオリンが上手で、大工仕事も農作業も素晴らしい。きめ細やかな、こんな男いるのかというようなチャールズ父さん。

お父さんが 1 人で家を建てていて、まだ未完成の頃、馬に乗って畑の様子を見に行きました。「小麦、ちゃんと育っている。大丈夫だ」と安心して、そして夕方家に戻った時、真っ青で汗ビシャビシャ。「あなたっ！ どうしたの?!」

馬に乗って帰っている時、突然馬が興奮して走り出そうとするので、何が起こったのかと見ると、40 頭ほどの狼が周りを取り囲んでいたんです。狼は群れる動物なのでボスがいます。ボス狼は子牛くらいの大きさで、馬の隣を並走する。馬は恐れて恐れて、今にも駆け出そうとするのですが、駆け出すとイヌ科の動物は追いかけて来ます。落ち着かせなければと「どう、どう。」その時、銃を持ってなかった。

何とか家まで辿り着いたけど、家は未完成で扉がまだ付いてない。入口はのれんみたいなカーテンが垂れているだけ。ボス狼が入り口の所にいるんですよ。家の周りを 40 頭の狼がぐるっと取り囲んで、ボスが「ウォーン」と言うと、40 頭が一斉に「ウォーン」。

娘たちが怖がって「父さん、どうするの?! 狼だらけ！」しかも、家の扉ナシ。出入り自由。「狼入って来たらどうするの？」その時お父さんが「大丈夫だ。入り口を見てごらん。こんなに狭いじゃないか。大きな狼は 1 回に 1 頭ずつしか入って来ない。今夜は父さんが寝ずの番をして、狼が入って来たら、このライフルで 1 頭ずつ撃ち殺すよ。」それを聞いて、娘たちは丸太の隙間から狼を見るけど、「父さんが守ってくれるから大丈夫！」と言って眠りに就く、という章があるんです。

狼はいなくなったわけではない。狼は相変わらず家の周りを取り囲んでいるけど、非常に頼もしい父さんが共にいる。父さんにはライフルがあって、侵入して来る敵を 1 頭ずつ仕留めて行く力がある。狼が私の所に入って来る前に、狼と私の間に父さんがいて、父さんが私と一緒にいて守ってくれるので恐れなくてもいい。これは実話なんですよ。

日本に住んでいる限り、狼 40 頭に取り囲まれる事はないと思います。天王寺動物園で、違反して檻に入る人は別ですけど。「そんな奴はおらんで」と。でも生きていたら、四方八方、逃げ場がないような状況はある。右見ても左見ても敵だらけで、自分を守ってくれる人はいるのか？ 絶体絶命のピンチでどうなってしまうのか？ という状況に立ち入る事はあるじゃないですか。「そんなのない」と言う人、今までないだけで、これからちゃんとあります。

その時、全知全能の神が共におられて、問題そのものの解決ではなく、問題に取り囲まれながら、しかも全能の神が、「これには意味がある。わたしが全て良いようにするから、わたしが共にいる事に信頼して

いなさい」という事を信じられる人と、「そんなもの無いわ！」と思っている人では、受け止め方が全然違ってくると思うんですね。

イザヤ 41:10 恐れるな。わたしはあなたとともにいる。

「神が私たちと共にいる」というのは、ヘブライ語で「インマヌエル」と言います。これはクリスマスの意味です。「目に見えない神が目に見える形で、1度人となってこの世界に来てくださった。この人となられた神がイエス・キリストである。この方は私たちと共におられる神である。」

会社の面接官たちが集まって座談会を開いているネットの文字情報、サラリーマンがよく見るサイトで、時々見るのですが面白かったです。この中にも、これから就職する方がいるでしょうが、面接官が色々質問して、最後に「君たちから何か質問があったらどうぞ。」

面接官が学生からされて、1番ドキッとした質問は何かという座談会。それが、殆ど皆同じだった。それは「今でもこの会社に入りたいですか?」「今は面接官で採用する側。でも、あなただって、1度採用される側でしたよね。念願かなって、何十年か勤めて面接官にまでなられて、この会社の内情を全部よく分かった上で、今でもこの会社に入りたいですか?」その時、皆ドキッとしたと。

なぜか?1つは、問われているのは会社ではなく、その人個人だからです。個人の正直な事を、その場で言っていいいんでしょうか?「ここだけの話やけど、ここブラックやから、やめといた方がいいで。」そんな事を言う面接官は、面接官として失格です。だから立場は崩さない。「もちろん当たり前じゃないか。いい会社だよ。」本音は出さない。立場を崩さない。

神は、神の立場を下りたんです。神のあり方を捨てる事ができないとは考えないで、1度人としてこの世界に来てくださった。そうする事によって、肉眼でも「私たちと共にいてくださる」という約束を果たす神であるという事を示した。それによって「神は一人ひとりの人間を心に留めているのだ」という事を分からせようとしているのです。

恐れなくてもよい理由 2) たじろぐな。わたしがあなたの神だから。

恐れなくてもよい。たじろがなくてもよい。パニックにならなくてもよい。わたしがあなたの神で、わたしはあなたの神である事をやめないから。神は変わらないお方。

今年 2020 年、オリンピックの年は必ず、世界的に大きなイベントがあります。アメリカの大統領選挙。アメリカ大統領選挙の時は必ず、1組の夫婦がどん底に落ち込みます。それは落選した夫婦。その落ち込みがどんなに深刻なものか、最近知りました。

40 年前、アメリカで非常に人気のあったレーガン大統領 (1911-2004)。
彼が 2 期目の時に対抗馬だったのがモンデール (1928-)。彼はカーター大統領 (1924-) の時の副大統領。
私、こうやって覚えたんですよ。「カーターの肩、モンデール」。

カーターは 2 期目の時にレーガンに負けたので、自分の時のモンデール副大統領を懐刀でぶっつけて、「レーガンに一矢報いてくれ!」と選挙やったのですが、アメリカ選挙史上 2 番目の、圧倒的な歴史的な大敗を喫した。確か選挙人の数で 520 対 13。
つまり、アメリカ人の殆どから「お前は要らない。」「我々が欲しい大統領はレーガンだ。お前じゃない。」と突き付けられたんですね。

モンデールは非常に頭がいい人で、後に日本大使になりました。
しかしこの時、あまりにもひどい負け方で、彼はメンタルの病気に罹ってしまったんです。
色んなカウンセリングや医師の処方を受けるのですが、どうしても立ち直る事ができない。
その時、「そうだ！あの人に聞けば何とかなるかも…」と思ったのが、12年前にニクソン大統領（1913-1994）との選挙で惨敗したマクガヴァン（1922-2012）。
彼もひどい負け方をして、選挙人の数で520対17だったと思います。

アメリカの選挙史の中で、3本の指に入る負け方をした人がいる。自分と同じくらいの負け方という事で、落ち込みからの立ち直り方を教えてくれるのではないかな？
会いに行って、「マクガヴァンさん、いつになったら私は立ち直れるでしょう？あなたはどのように立ち直ったのですか？どれくらい時間がかかりましたか？」
すると「そんな日が来たら連絡する。」12年間、立ち直ってない。

レーガンの時の副大統領は父ブッシュ（1924-2018）。彼は大統領（1989-1993）になった後、再選を目指して2期目を務めようとするのですが、クリントン（1946-）に負けました（1993-1997）。
父ブッシュ大統領の回顧録。「辛い。非常に辛い。この気持ちを言葉に表す事はできない。しかし、辛いのだ。」

クリントンは再選を果たし（1997-2001）、その時の副大統領がゴア（1948-）。
彼は大統領に立候補しますが、息子ジョージ・ブッシュ（1946-）に負けた。
負けた時、突然口ひげを生やし、非常に雄弁だったのが無口になり、政界から引退し、田舎に引っ込んで隠遁生活を始めました。人と会うのが嫌で、たまらなく辛いと。

4年前の2016年、トランプ大統領と、民主党はヒラリー・クリントン（1947-）。
彼女が負けた時の回顧録のタイトルは『What Happened』（何が起こったの？）。
民主党候補で自分がずっとトップだったのに、後から来たオバマ（1961-）にヒュッと抜かれて。
水戸黄門の歌のよう。「後から来たのに追い越され、泣くのが嫌なら、さあ歩け♪」

「あの時も悔しかったが、オバマは私が尊敬できる人だ。私が負けた相手は誰か？あんなはしたない、あんなトランプに負けたという事は、私はトランプ以下なのか？アメリカ国民は、私よりもトランプの方がいいのか？」そして体調を崩し、元気なフリをするのが辛いので、もう誰にも会わないと。

今、民主党の大統領候補は十数人。あまりにもどنگりの背比べなので、ヒラリーにもう1度出馬要請があるのではとされているけど、「出ない！」と言っている。
お顔を拝見したらビックリしました。あのヒラリーじゃない。目がパッチリしすぎ。すごく整形した。
あまりにも落ち込んだので、整形美容手術を受けて別人の顔。それくらい大きなダメージがあった。

アメリカの大統領選挙で、民主党が共和党の候補者に選ばれたという段階で、それだけで非常に偉大な事だと思いませんか？そこに昇り詰めるために、どれだけエリートコースを勝ち上がってきたのか。
どれだけの能力・学歴・キャリア・才能…。もう、それで十分誇れるに値する成功者・出世街道なのに、それでも大統領選挙に負けると、廃人一步手前になるくらいにドーンと落ち込むのはなぜか？
それは、成功を神として拝んでいるからです。

私はスケールはあまりにも違うけど、その人たちの気持ちがちょっと分かります。

私はすごく成功思考の人間なんです。以前はそうだったし、今もまだ、しっぽが生えている感じがする。

成功する事が自分の価値の根拠だと思っている人は、大失敗した時、もう生きる価値がないと判断するんじゃないですか？ 美しさが自分の価値だと思っている人は、美しくなくなってしまったら絶望するんじゃないですか？ 財産の多さが人生の価値だと思っている人は、財産を全部失くしてしまったら、生きるに値しないという事で人生を降りるんじゃないですか？

何を神とするかによって、その神に捨てられる時、人は絶望してしまうのです。

富・名声・成功・人気など、そういうものは全部神ではないもので、聖書はそれを「偶像」と言います。神ではないものに自分自身を縛り付け、しがみついて、それを拝んでいる場合、必ず終わりが来る。

しかし、聖書の神は私たちが絶対に捨てない方。この方は変わらない神。

私たちを造り、愛し、私たちが弱い時にこそ、寄り添わずにおれない。

私たちの将来をよく考えておられる方。何が私の幸せかを、私以上によくご存知の方が私の神。

イザヤ 41:10 たじろぐな。わたしがあなたの神だから。

「恐れの原因は、神ではないもの（偶像）を神として拝んでいるからだ」と聖書は語るのです。

恐れなくてもよい理由 3) わたしはあなたを強くし、あなたを助け、わたしの義の右の手で、あなたを守る。義とは、罪を憎む正義の義。

ところで正月早々、エライ事件が起こりましたね。ゴーン。たんすにごーん。Go, Went, Gone.

日本を去ってレバノンに Gone (ゴーン) してしまった。あれがルノー・日産グループ総帥のする事かと。日本の検察は歯ぎしりしながら、「だから言わんこっちゃない！ 保釈したらアカンて言うてたやないか！」日本の司法も舐められたものですが、これには色々理由がある。それは、天満橋倶楽部の方で。

このままだと有罪免れないと思い、国外逃亡して自分の身を守ろうとするのは彼が初めじゃないでしょ。外国に逃げて何とかしようとする人は、今まで何人もいました。

57 年前の 1963 年、犯罪史上名を刻む大悪党がいました。

イギリスで郵便列車を襲って、今のお金に換算して 50 億円以上もの現金を 12 人のグループで強奪した。リーダーはドナルド・ビッグズ (1929-2013)。非常に知能犯。信号機に細工して人為的に赤信号にします。深夜 3 時、ロンドンに向かって郵便列車が走っている。運転士が「おかしいな。なんで赤なんだ？」列車を離れて信号機を見に来た時、襲われ殴られた。運転士は、この時の傷がもとになって 7 年後に死にます。12 人が 50 億円以上のお金を強奪してとんずらしますが、ほどなく全員捕まりました。

特にリーダーのビッグズは懲役 30 年。ところが、刑務所に入って次の年、脱獄に成功し、偽のパスポートを偽造しながら、パリに行って整形手術をし、別人になりすまして、オーストラリア・パナマ・色んな国を転々として最終的にブラジル。

イギリスの警察がブラジルに行って突き止めるけど、ブラジルとイギリスの間に犯人引き渡し条約が結ばれていなかったの、イギリスの警察は目前に犯人がいるのに逮捕して連れ出す事ができない。

彼はナイトクラブの踊り子を妊娠させます。ブラジルの法律では、子供の父親が外国人の場合、その父親は何かあっても外国には渡さない。ビッグズは本当に反権威主義者で、権威あるものが大嫌い。「俺は二重に守られているんだ。」それで、イギリス警察はすごすごと引き下がるしかなかった。

そして、彼は優雅な生活をします。この事件が映画になり、パンクロックのセックスピストルズの（僕ら高校時代はそんな青春でした）ボーカルも一時やってたんです。レコーディングで。「俺はラッキーだ！怖いものなんかない！イギリス警察、捕まえてみろ！」腹立つわ。ほんまに。

自宅を開放して、イギリス人観光客にバーベキューを振る舞いながら、どうやって列車強盗をやったか・嚴重な刑務所から脱獄したか・転々と渡り歩く事ができたかの種明かしというか、逃亡録をとうとうと語ります。それは、彼なりのサービス精神でした。

みんな初めは怖いもの見たさで彼の家に行きますが、聞いている内に、悪い事をしながら何の罰も受けず、優雅な生活をしているのを見て、「こいつ、許されへん！」そして皆去って行く。

「聞きたくないから別にいいよ。俺はここで自由だから」と、ブラジルで悠々自適の生活をします。

なぜ、イギリス人の観光客ばかりを呼んだのか？実は、故郷の国の人と喋りたくて仕方がなかった。60になり70を過ぎた時、彼は「ブラジルは嫌だ」と言い出します。「ここはイギリスじゃない」って、自分が選んだんやん。

そして『The Sun』の記者に、「イギリスに帰りたい。プライベートジェットを手配してくれ。渡航費用を持ってくれたら、独占出版契約で俺の生涯を話しするから。」どこまでの男ですか、こいつ。

記者が「イギリスに帰ったら、即空港で逮捕されて、刑務所にぶち込まれるぞ」と言うのですが、「たとえ刑務所でも、俺の故郷じゃないか」と言って帰るんです。

ヒーローについて、即逮捕されて、即刑務所に入って、即肺炎に罹ったんですね。

死にかかって病院に行き、肺炎は治りますが、抗生物質が効かない病気に罹るんです。

より強力な抗生物質で治って、また刑務所へ。そこでまた悪化して病院へ。前よりもっと強い抗生物質を使う。その繰り返しで8年間。イギリスに戻っているけど、彼が見たのは刑務所と病院だけ。

8年服役して80歳で出獄。歩けませんでした。施設に入って4年後に亡くなります。

その間、息子が何回も「もう歳取ってるから勘弁してやってくれ」と言いますが、法務大臣はみな却下。なぜ？「罪は必ず償われなければならない。罪を犯していながら、償いなしに良い思いをするのは、あってはならない事である。罪は必ず罰を・裁きを受けなければならない。イギリス司法はここを曲げる事はできない。」彼が夢にまで見た故郷は、彼の寿命を縮めるものにすぎなかったんですね。

でもそれは全部、彼が蒔いた種なんです。

恐れの原因はどこにあるか？私たちが造った神様から離れているところにあるんです。

だから、故郷である神のところに帰ったら良い。しかし罪を持ったままでは、この故郷に戻る事は出来ません。故郷に戻るために、わたしの義の右の手で、あなたを守ると言われたのです。

義は正義の義。利き腕・力のシンボル・神のみわざそのものを表す時に、右の手という言い方をします。

神の正義の右の手があなたを守る。罪人なら、神の正義の右の手はあなたを裁かなければならない。

その拳は、罪人の上に振り落とされなければならない。

しかしそうではなくて、罪人を庇い・守り・救う事が神の義になると言うのです。

なぜ、そんな矛盾した事になるのか？償いのない赦しではなく、私たちの罪の償いを、全く罪のないイエス・キリストが十字架にかかって、全部引き受けてくださったから。

「自分の救い主としてイエス・キリストを信じるならば、キリストの償いが与えられている者と見なされ、その人は神の前に受け入れられる」と約束されているのです。

